

## 帝塚山大学心理科学論集 執筆・投稿要領

1. 本誌に掲載される論文は、心理学に関する未公開の論文とする。
2. 投稿論文は、原著論文、資料論文、展望論文、ショートレポートの4種類とする。
3. 論文の投稿にあたり、その第一著者は心理学部構成員および客員教授であることを要する。なお、共著者は非構成員であっても可とする。第一著者が心理学部学生、心理科学研究科院生、研究生および修士生である場合、共著者に心理学部構成員もしくは客員教授が含まれていれば投稿を認める。
4. 原著論文および資料論文は、問題（目的）、方法、結果、考察（結論）、引用文献、英文要約からなることを原則とする。実践研究も同様の形式を踏むことを原則とするが、必要に応じて別な形式でも可とする。
5. 展望論文は、構成を必要に応じて調整することを認めるが、研究状況、主要成果、問題点等を解説し、研究の意義と今後の課題がわかるように論じること。
6. ショートレポートは、問題（目的）、方法、結果、考察（結論）、引用文献からなることを原則とする。
7. 原著論文、資料論文ともに刷り上がり10頁（和文論文は20,000字、英語論文は7,000words程度）、展望論文は刷り上がり15頁（和文論文は30,000字、英語論文は10,000words程度）、ショートレポートは刷り上がり2頁（和文論文は4,000字、英語論文は1,400words程度）を限度とする。なお、英文要約で刷り上がり1頁分を要することを考慮すること。図表については、挿入希望箇所（執筆テンプレート参照）を目安にしながら必要文字数を見積もること。
8. 投稿に際しては、原稿を2部提出する。原稿の体裁は、1頁目を添付票（投稿区分、表題、著者名、所属機関名並びにそれらの英訳、及び代表者の連絡先を記す）、2頁目以降を本文（図表については通し番号をつけ、本文の最後に一括して記す）、最終頁を英文要約で構成すること。
9. 原著論文、資料論文、展望論文は英文の要約とキーワードを必要とする。
  - ①内容は、目的、方法、結果、結論で構成し、300wordsを上限とする。
  - ②表題及び、3～5項目のキーワードをつけること。
  - ③文章に関しては、専門家の校閲を経ていること。
  - ④必ず日本語の要旨を添えること。
10. 投稿論文は常用漢字、現代かなづかいを用い、簡潔、明瞭に記述する。カタカナは、原則として日本語化した外国語を記述する時のみ用いる。また、数字は原則として算用数字を用いる。
11. 表と図は必要最小限とし、本文との重複、および図表間の重複は避ける。図表の作成については、執筆テンプレートを参照すること。
12. 引用文献は論文の最後に、著者名のアルファベット順に一括してあげる。記述の仕方は日本心理学会の“執筆・投稿の手びき”に準じる。
13. 脚注は通し番号をつけ、本文中の該当部分に、対応する番号を付す。
14. 投稿論文と内容的に特に関係の深い、同一著者による既公開論文（著書や印刷中のものも含む）がある場合には、その別刷またはコピーを3部添付すること。その際、著者名や所属、掲載誌がわかる記述は削除すること。
15. 論文投稿後、論文の取り下げをする場合、理由を明記した文書により取り下げの意思を編集委員会に申し出ること。なお、出版作業に移行している原稿については、取り下げによって生じる学術誌の損害を著者が負担する。
16. 本誌と他の学術誌に同一内容の論文を重ねて投稿することは認められない。
17. 校正は、初校および再校は著者、最後は編集委員会が行う。
18. 所定の頁数を超える分の掲載費用は著者の負担とする。また、特別な図版、写真等の掲載費用については著者の負担とすることがある。
19. 本誌に掲載された論文の原稿は返却しない。
20. 執筆の際は、必ず心理学部紀要の執筆テンプレートに従い、その他の詳細については日本心理学会の“執筆・投稿の手びき”を参照すること。